

唐長安城の復原 ～初期平安京正方形仮説の検証～

高見 友幸

大阪電気通信大学 総合情報学部

キーワード：唐長安城，藤原京，箸墓古墳，天武天皇，初期平安京正方形仮説

概要

藤原京は、通説では、1辺 1500 丈の正方形とされる。同じように、平城京や平安京も、ある仮説のもとでは 1辺 1500 丈の正方形とみなすことができる[1][2][3]。しかしながら、関連学会の現状は、平安京は東西 1500 丈とするものの、南北は 1751 丈と復原する。これまでの一連の研究を考えると、天円地方の思想を深く信じる古代の人々が、都城を 1751 丈という半端な寸法に造るはずはないであろう。

我々の最近の研究から、唐長安城もその内部に多数の正方形を含むことが明らかとなった。それは、単に正方形というだけでなく、1辺が1里、10里、1000丈の正方形なのである。設計に現れる数値のこうした完全性は、古代史研究において強く意識されなければならない。図1にその正方形のいくつかの例を示した。

唐長安城に現れる正方形のうち、1辺 3600 歩 (=1800 丈：唐尺) の正方形をそのまま写したのが藤原京 (1500 丈：高麗尺) だったと見る。この 1500 丈の寸法がそのまま平安京にまで継承された。ところで、1辺 1500 丈の正方形の周囲長は、日本の尺度ではちょうど 10000 歩に等しいのである (なお、この正方形は唐の尺度では 1 辺 10 里の正方形である)。

さて、本稿の仮説を認めるとすれば、藤原京の宮殿は、唐長安城と同じく 3600 歩の正方形に接した北側の位置に造営されたであろう。したがって、藤原宮の位置 (長安の宮城の位置と同じ位置) も正確に見積もることができる。その位置は、ちょうど箸墓古墳 (卑弥呼あるいは崇神天皇陵とされる) とほぼ同一の緯度上にある。その地名は「味間」であり、崇神天皇のミマキイリヒコ、皇

後のミマキヒメにも通じる。日本書紀によれば、天武天皇は新しく造る宮の場所「新城」を訪れた。通説では、これを新しい宮のことと解釈するが、仮に地名とみれば、新城は「しき／にいき」で、磯城、新木 (味間の近辺の村) なのである。

周礼の都城モデル「方九里」は平安宮や藤原宮できちんと適用されているが、同様に周礼の「左祖右社」も満たされていると考えるなら、天武天皇は祖先が崇神天皇 (または卑弥呼) であることを知っていたのである。

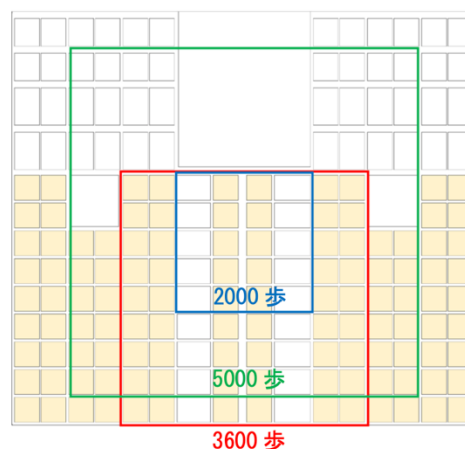


図1. 唐長安城に見られる正方形の例.

参考文献

- [1] 高見友幸, 摩訶大将棋起源説と初期平安京の復原 ～中国象棋とチェスの起源～, 考古学ジャーナル 2021 年 11 月号, 40-50, 2021.
- [2] 高見友幸, 初期平安京の復原 ～都城の思想と大型将棋の将棋盤～, 国際 ICT 利用研究会論文誌第 4 巻, 18-28, 2020.
- [3] 高見友幸, 初期平安京の復原再考 ～都城における設計数値の継承～, IIARS 研究会研究論文誌第 2 巻, 23-29, 2021.

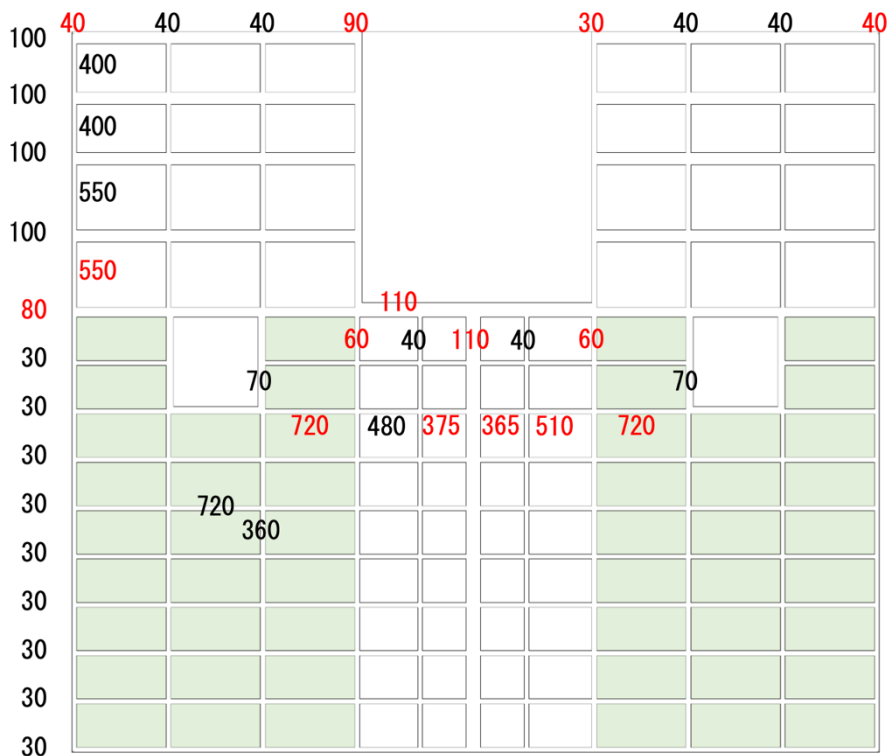


図 2. 唐長安城の復原. 数値の単位は歩である. この復原案については, 文献 (井上和人, 日本古代国家と都城・王宮・山城, 雄山閣, 257-290, 2021.) を参照されたい.

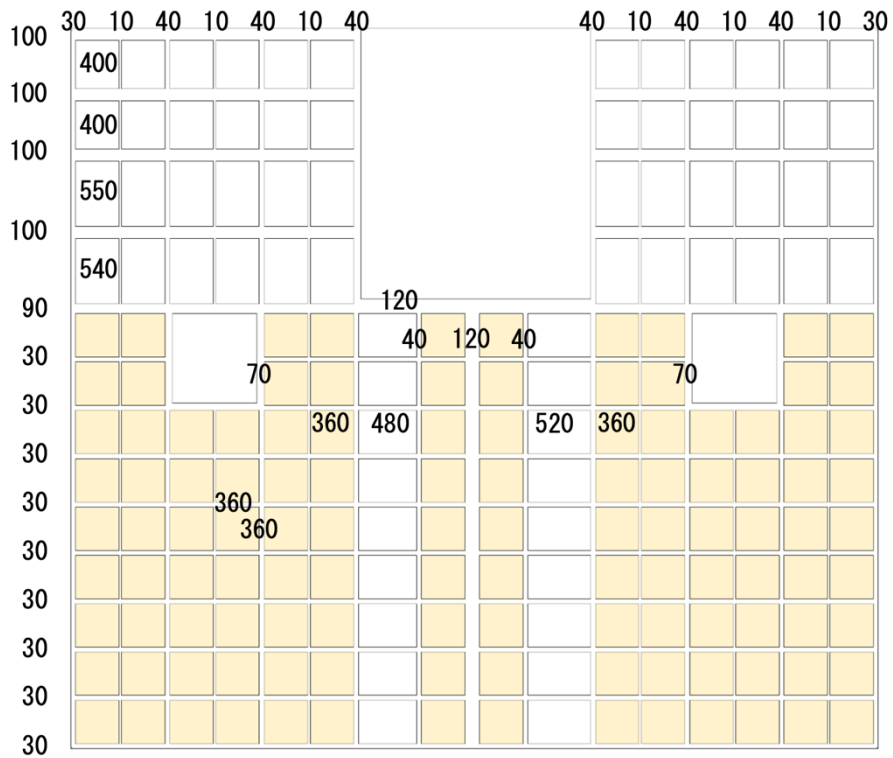


図 3. 本稿が提起する唐長安城の復原. 数値の単位は歩である. 薄茶色の区画は一辺 360 歩の正方形を示す. 長安城全体の東西幅と南北幅は図 2 の案と同じである. 図 2 との差異は, 最大でも 20 歩の差である.